

はじめに

本事業は、平成 24 年 10 月に文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されたことを契機にスタートし、現在、平成 25 年度末をもって、1.5 年が経過している。本報告書は、この成果を報告するものである。本事業の概要は、以下の通りである。

理系と英語をむすび社会貢献の態度を育てる

京都産業大学は初代総長の荒木俊馬の掲げた建学の精神の中で、「全人類の平和と幸福のために寄与する精神をもった人間を育成すること」を謳ってきた。21 世紀の日本は、経済、社会、文化、環境のあらゆる局面でグローバル化の渦の中にある。全地球規模で次々と起こる問題に立ち向かい、その解決に貢献できる人材の育成は、産業界のみならず社会全体の強い要請であり、本学はその要請に応えるため、さまざまな取り組みを行ってきた。平成 24 年度文部科学省の補助事業「グローバル人材育成推進事業」に採択され、平成 26 年度から「グローバル社会で活躍する理系産業人育成プログラム」が理系 3 学部と外国語学部において始動する。本報告書は、平成 24 年度から平成 25 年度にかけての本事業の成果を報告するものである。

開学当初から理学部を持つ本学では、その後、工学部を開設し、さらに工学部を発展的に改組し、コンピュータ理工学部、総合生命科学部を開設した。現在、中規模私立大学では珍しい理系 3 学部を擁する総合大学となっている。理系学部では「科学的マインド」の探求を机上の空論とせず、学問を現実社会と結びつける態度を重要視し、産業＝「むすびわざ」の追求を行っている。本取り組みでは外国語学部との連携を図り、英語力と発信力を鍛え、科学の高度な専門知識を駆使しながら世界を舞台に活躍する人材の育成を目指す。

「標準的な学生」からグローバル人材へ

本事業では、「グローバル社会で活躍する理系産業人」の養成を目的として、「チャレンジ精神と主体性」「高い専門性」「対話能力」「確かなアイデンティティ」の 4 つの理念に基づいた能力を獲得するプログラムを展開している。若者の「内向き志向」に加えて理数離れが進み、日本の国際的な競争力の低下が憂慮される中で、理系のグローバル人材の育成は本学の大きな使命の一つである。本事業では一部のエリートだけではなく、「標準的な学生」をグローバル人材に養成することを目指す。

理系 3 学部と外国語学部が連携してサポート

本事業では一拠点総合大学の利点を最大限に活かし、「科学的マインド」を追求する理系 3 学部と、語学習得を追求する外国語学部との連携による教育プログラムを構築することに特徴がある。それぞれ、グローバル・サイエンス・コースとイングリッシュ・キャリア専攻の 2 つのコースを開設し、プログラムの核とする。各学部ではバラエティーに富んだ専門科目群を体系的に履修することで、「高い専門性」を身につけることができる。さらに理系特別英語（科学の専門分野で英語での情報発信の能力を高め論理的な思考を学ぶ）、英語サマーキャンプ（合宿形式で理系学部と外国語学部の学生が交流を通して学びを深める）などのプログラムを通して、「対話能力」「確かなアイデンティティ」を確実にする。そして国内、海外の多様なインター

ンシップや PBL（Project-Based Learning）型授業を拡充して、「チャレンジ精神と主体性」の涵養を促進するとともに、奨学金制度で留学を支援する。

本報告書は、冒頭で述べたように、本事業に関する 1 年半の活動内容を取りまとめたものである。同時に、平成 26 年 4 月にグローバル・サイエンス・コース、イングリッシュ・キャリア専攻の第一期生が入学するまでの整備状況を明確にする資料である。